

くみあいニュース

山口大学教職員組合 (2026年5月26日) Tuesday)

第311号 (2024年度-第23号) / 電話: 083-933-5034 ・ メール: fuy-union@galaxy.ocn.ne.jp

2025年人勧踏まえた給与引上げを求めて学長と団体交渉 (5/15)

5月15日(金)午後1時半から1時間として、法人化後、初の学長との団体交渉を行いました。2004年4月の国立大学法人化後の大学と組合との団体交渉では、学長の意向を踏まえた人事労務担当理事が交渉当事者となっており、今回のように学長が出席し、直接、組合交渉に応じるのは、他大学含め初めてのことです。



この点については評価できるものの、しかし、交渉前日に人事課から「学長は所用につき30分で退席」と、具体的な用務内容の明示もない連絡がありました。交渉日時は先月4月14日には双方調整のうえ確定されていたもので、これを前日に30分のみとする等は通常あってはならない対応と言わざるを得ません。

交渉には、谷澤幸生学長・田上雄一郎理事(人事労務等担当)・茅野康弘総務部長・藤田泰子人事課長・林田智史財務課長の他、人事課・財務課事務担当者が出席し、組合は三原委員長、桑畑副委員長・滝野副委員長・鴨崎参与等が出席しました。

冒頭、三原委員長から、学長が交渉に応じたことへの謝辞を述べた後、「30分退席」は非常に残念であると伝え、続いて鴨崎参与から組合としての基本要求すなわち、「3.62%の基本給引上げの完全実施」を求めたうえで、具体的な質疑は桑畑副委員長より、谷澤学長の考えを質す形で交渉を進めました。

「人勧不対応は大変遺憾」しかし「財政状況改善が不明」でそのまま

3月24日の第2回団体交渉で溝部前理事が、「学長が何らかの対応を考えておられるはずだ」と答えたことをあげ、組合から学長へ現時点での考えを質したところ、谷澤学長は、人勧に対応していないことは大変遺憾だとしながらも、その後の財政状況の明らかな改善がはっきりしていないことをあげ、「現時点では方針に変更なし」と答えました。これに対し組合は、物価高騰のもと、非準拠のままでは実質賃下げになっており、全国の国立大学で最悪の状況であることを指摘しました。

学長は、人勧凍結の大学が山口大学だけなのかは承知していない、本来引き上げるべきであるが財政状況に変化がない等と繰り返すのみでした。3月までの交渉で組合が求めてきた、文科省からの補正予算交付・運営費交付金増額の予算要求、厚労省からの補助金交付と新年度からの診療報酬改定など、かつてない規模で新たな収入が見込まれているだけでなく、山口大学の予算残額、病院の赤字減少等の様々なプラス要因を受け止めて、「まずは給与引上げ」という姿勢は示されませんでした。

この他にも学長へ、今回の人勧不対応は経営的にも問題があり、その責任は執行部にあるのではないかと追及したところ、運営費交付金の漸減や物価高騰・人件費高騰など複合的な要因がありこのような状況になっていると説明し、執行部の経営責任は認めませんでした。続けて、社会的要因は他大学も同様で、山口大学固有の問題があるのではないかと質したところ、附属病院の再整備ができていないのは山口大だけで、他大学よりも最初に着手し計画を進めたが、東京オリンピックや新型コロナなどで資材が高騰し見通しが変わった、他大学の借入金返済額は年間数億円レベルだと思うが、山口大は突出して多いという事情があるが、附属病院は経営改善に努めていると回答しました。

また、山口大は「明日の山口大学ビジョン2030」でも研究で力を発揮できるような場にと宣言しているが、基本、労働者は市場原理で動くものであり、賃金も上げずにどう達成するのか、その齟齬について問うたところ、大学独自になんとかそこは対応しないととは考えている、今後の見通し



が良くなれば、何らかの形で教職員に部分的にでも対応したい気持ちは十分にあると答えました。

学長への1, 2点の確認を遮られたため、再度の学長交渉を求める

30分経ったところで学長が退室しようとしたため、鴨崎参与が1, 2点ほど確認を求めたことに対し田上理事が、「学長、出ないといけないんで」などとして2度にわたりこれを遮りました。そのため、学長に再交渉を求めたところ、学長が「うまく日程が整えば、明言はできないが」として退席する一幕もありました。

30分で学長退室後、40分近くの交渉（田上理事）は実いなし

学長退出後、続けて田上理事（前京都大学財務・調整担当副理事）を学長に代わる交渉当事者として、約40分間交渉を行いました。改めて山口大学ビジョンとの齟齬について問うたところ、理事からは、給料の引き上げと教職員の頑張りが関係するということに果たしてなるかどうか、との返答がありました。また組合提示資料（中四国国立大の財務諸表を元に作成したデータ）のうち、役員報酬の平均グラフの表を示し、教職員の賃金は上げないのに役員報酬は高い水準にあるのはいかがかと質したところ、平均はどう捉えればいいのか難しい等と答え、また組合役員が作成したデータは、大学の公開情報がベースで、そもそも大学が承認しているべき数字ですが、逆に追加提示を求められる場面もあり、その他発言等含めおよそ誠実交渉義務ということへの理解が感じられない対応でした。（しかし後半には、それまでの主張から転換し、給与引き上げは重要だという場面も）結局、予定の1時間を若干すぎたところで組合は学長との再交渉を求めることを再度伝えて交渉を終わりとしました。

今回の交渉で受けた印象としては、大学は経営難に関する試算データは繰り返し示すものの、例えば近隣他大学の状況や比較、教職員給与への影響などについてはきちんと押さえていないのではという点です。「遺憾」と言いながら、人勧凍結が教職員や今後の大学運営に及ぼす影響がどれほどなのか検証すらしていない、少なくとも即答できませんでした。だからむしろ2年間人勧凍結を易々と宣言できるのでしょう。



交渉後学長から「補足説明」メール届く 決算かなり改善見込と

交渉翌週5月18日（月）朝、人事課から組合にメールが入り、確認したところ内容は学長からの、5月15日交渉時の学長回答の補足説明となっていました。

そこに書かれていたのはおよそ以下のようなことでした。

- 人勧準拠できていないもとでも研究・教育・支援を行っている教職員へ感謝する。
- 配分予算現象のもとでも大学運営への協力、機能維持を行っている各部局等へ感謝する。
- 附属病院の努力により昨年度決算が当初見込みよりかなり改善の見込みである。
- 今年度は診療報酬改定と各方面の協力を得て、「一刻も早く以前のような状況に戻ることができるように経営努力を続けて行きます」、「引き続きの協力をお願いします」 ※カッコ内は原文のまま。

文脈全体からすると、「以前のような状況」というのは、給与改善は人勧どおりにおこない、部局予算・教員研究費も従前の水準まで回復させることができるように努めたいし、その可能性は出てきている、と書いてあるようにも見えますが、全体として曖昧模糊とした「補足説明」の域をでるものではありません。

ほっと一息つきませんか？「組合カフェ“Café de l'Union”」のお知らせ

「最近、人と話す機会が減ったな…」、「すこしお茶でも飲みながら、気軽に雑談したいな」

そんな風を感じることはありませんか？組合では、毎週木曜に組合カフェを開催しています。

お仕事の合間に、ぜひ気軽にお越しください。コーヒーやお菓子を用意してお待ちしています♪



☑ オープン 毎週木曜日（12:00～14:00）

☑ 場 所 山口大学吉田キャンパス/事務局 2号館 1階

★組合員さんもそうでない方も大歓迎！

★クールシェアスポットとしてもご利用ください

組合公式 X でも
お知らせしています！

